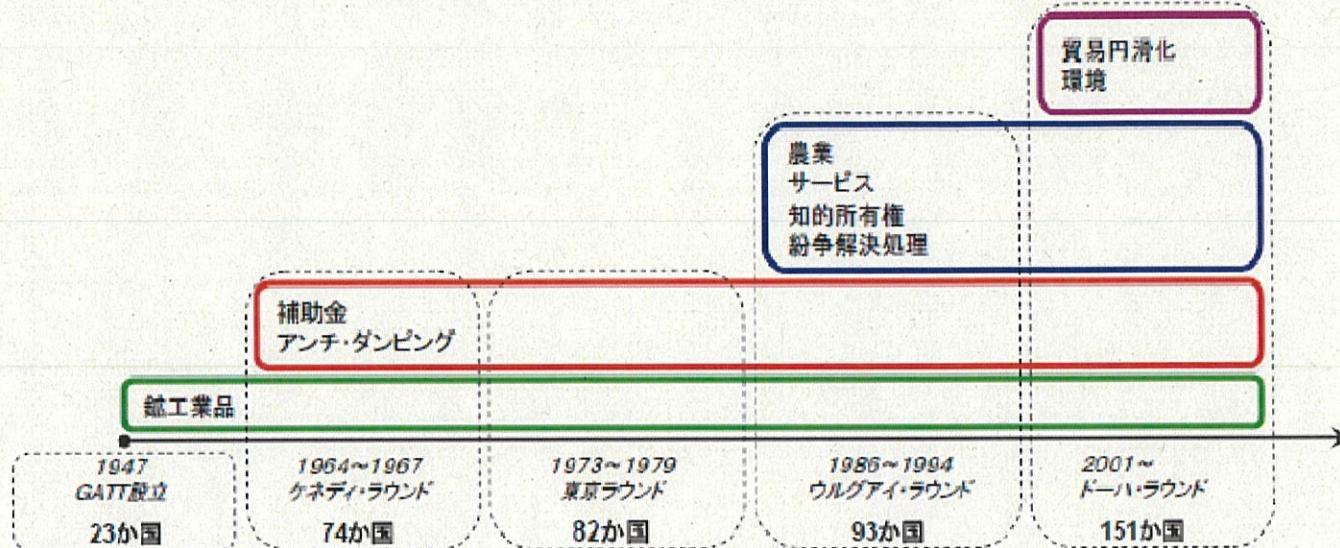


ラウンドとは (GATT～WTO)

- 「ラウンド」とは、全ての加盟国が参加して行われる貿易自由化交渉
- ウルグアイ・ラウンドでは、初めて本格的な農業分野のルールを策定
- WTO体制(1995年設立)の下で初めて開始されたのがドーハ・ラウンド



15

ガット・ウルグアイラウンド農業合意の概要

1995～2000年までの6年間(実施期間)に、①国内支持、②市場アクセス、③輸出競争の3分野の保護をそれぞれ引き下げていくことを約束。

区分	削減対象	削減方式(1995～2000年の6年間で実施)
国内支持	価格支持 補助金等	① 生産を増加させる効果のある政策措置について助成合計量を計算し、実施期間中に20%削減 ② 生産を増加させない補助金(環境補助金等)は削減の対象外
市場アクセス	関税	① 原則として、輸入数量制限等全ての関税以外の国境措置を内外価格差を基に関税に置換え(関税化)。 ② 農産物全体で関税を平均36%(品目毎に最低15%)削減。
輸出競争	輸出補助金	金額で36%、対象数量で21%削減(我が国はなし)

<カレント・アクセスとミニマム・アクセスの設定>

関税化品目については、最低限の輸入機会の提供が義務付けられた。基準期間(1986～88年)の国内消費量に対する平均輸入数量が、

- ① 5%以上のものは、その輸入数量を維持すること(カレント・アクセス機会)、
- ② 5%未満だったものは、実施期間の1年目に国内消費量の3%、6年目に5%の輸入数量とすること(ミニマム・アクセス機会)、

が設定された。

(コメは、関税化の例外として、実施期間の1年目に4%、6年目に8%の輸入数量とすることを約束したが、5年目(1999年)に関税化したため、現在は7.2%の輸入数量となっている。)

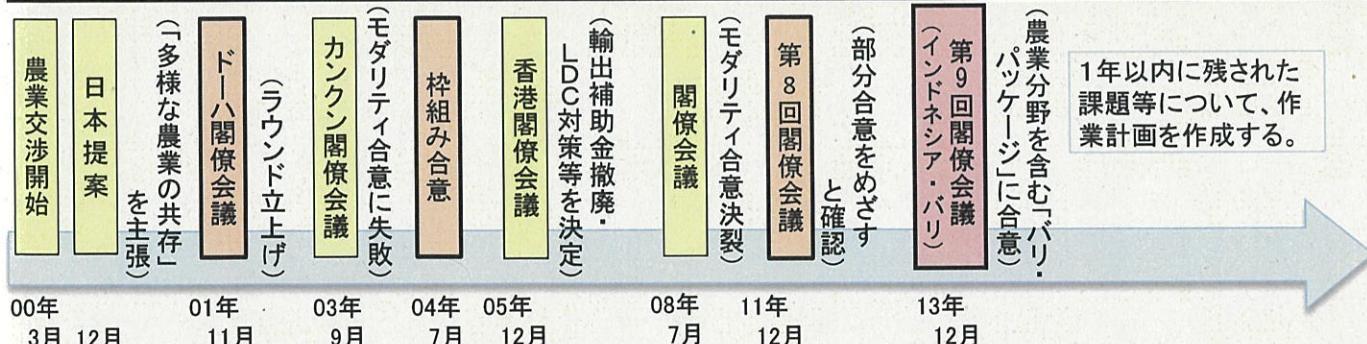
16

- 1995年にスイス・ジュネーブに設立された、国際貿易に関するルールを取り扱う唯一の包括的な国際機関
- 2016年5月現在、162カ国・地域が加盟
(第10回閣僚会議で承認されたリベリア、アフガニスタンが今後加盟予定)
- 主な業務は、
 - (1)世界共通の貿易ルールづくりのための交渉
 - (2)各加盟国による施策のWTO協定への整合性のモニタリング
 - (3)貿易に関する紛争解決
- WTOにおける貿易ルールづくりの合意はコンセンサス方式
(一つの加盟国でも反対すれば、残りの全ての国が賛成してもWTOとして決定は下せない)

17

WTOドーサ・ラウンドの流れ（農業交渉を中心に）

- 2004年の枠組み合意以降、モダリティ確立を目指すも、米国と新興国との対立等により合意に至らず。
- 2012年以降、近い将来の一括合意(モダリティ合意)を諦め、部分合意を追求。
- 2013年12月、農業分野の一部、貿易円滑化、開発の3分野からなる「バリ・パッケージ」に合意。



<米国と新興国との対立>

米国

- 新興国はその経済規模に見合った責任を負うべき

- 今のモダリティ案では新興国市場から何が得られるか不明確（鉱工業品・農業・サービス）

新興国

- 自分達は途上国であり、各種の柔軟性が認められるべき（開発ラウンド）
- 米国がさらに求めるなら、バランス上先進国は農業の補助金をさらに削減するべき

対立

<基本的な交渉の流れ>

① 枠組み交渉

関税削減方式の考え方など、モダリティの前提となる大枠を設定

② モダリティ交渉

関税削減率など、具体的な数値や詳細な要件などが入った各国共通ルール（モダリティ）の確立

③ 讓許表交渉

「品目Aの関税率はX%とする」など、各国ごとに、具体的な約束を決定

18